

総研大 アジア冬の学校

大 舘 暁

総合研究大学院大学（総研大）・核融合科学専攻主催のアジア冬の学校が2016年12月12日から14日までタイのチェンマイで開催されました。これまで、アジア冬の学校は核融合科学研究所において、海外の学生を対象に講師による講義のほか、参加者自身によるポスター形式の研究発表会を行ってきましたが、より多くの学生に対して核融合科学専攻の広報を行うために、初めての試みとして、海外での開催に踏み切りました。学生を日本に招聘するより、学生の在籍地に近い場所で講義を行うことで一人あたりの経費を節減し、より多くの学生に参加してもらうことができるわけです。

タイは核融合研究に力を入れつつあり、多くの学生が核融合研究に興味を持っています。2016年度にはタイのチェンマイ大学、タイ国家原子力技術研究所（TINT:Thailand Institute of Nuclear Technology）と核融合科学研究所との間で研究と教育に関する協定を締結し、今回はチェンマイ大学に会場の選定や冬の学校の運営など全面的に協力していただきました。

会場はチェンマイ大学近くの会議場兼宿泊施設である Uniserv CMU でした。昼食も会場内の食堂で全員一緒にとることができ、講義に集中できる素晴らしい施設でした。当研究所からは鈴木康浩准教授、柳長門教授と筆者の3名が講師として参加しました。また、総研大生が2名、管理部より1

名も参加しました。最終的にタイ・ベトナムから36名の学生を受け入れましたが、アジア、ヨーロッパからの100名を超える事前申し込みを受けており、参加者の数をさらに増やすことは今後の課題といえるかもしれません。

今回の冬の学校では、90分の講義を10コマ実施しました。プラズマ・核融合の基礎から、シミュレーションや計測についての実践的な講義、また、核融合工学に関する講義などが日本人・タイ人の講師陣から行われました。参加した学生は大変熱心で、活発な質疑応答が行われたほか、講義時間外にも多くの学生が質問を寄せるなど強い意欲を感じました。総研大への進学についても多数の質問を受けました。今後、多くの学生が核融合科学専攻に志願してくれることを願っています。

タイは常夏の国というイメージがありますが、タイ北部に位置するチェンマイは冬季の気候が穏やかで過ごしやすく、タイを代表する古都の落ち着いた雰囲気もあって、素晴らしい環境での冬の学校となりました。

親身になって協力いただいたチェンマイ大学のスタッフ、中でも Dheerawan Boonyawan、Udomrat Tippawan 両准教授に深く感謝いたします。

（高密度プラズマ物理研究系 准教授）



写真1 冬の学校参加者と講師たちの集合写真



写真2 鈴木准教授に対して熱心に質問をしている学生たち